

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	対人関係の障害		
英文授業科目名	Disturbed Interpersonal Relation		
開講年度	2008年度	開講年次	3年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	総合文化科目-上級科目-テーマ別セミナー		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	田中 健滋		
居室	保健管理センター202		

公開E-Mail	授業関連Webページ
kjtanaka@office uec.ac.jp	

<b>【主題および達成目標】</b>
<p>主題：代表的な日本人論の検討を通じ、日常生活の対人関係を考える。さらに、そこに現れる対人関係の病理について検討する。</p> <p>達成目標：代表的な日本人論を十分に理解し、これを批判的に評価できるようになること。さらにこの検討を基に、日常生活の対人関係の障害について論ずることができるようになること。テキストを鵜呑みにせず、これを批判的に検討し、自らの意見がもてるようになることが大事。</p>

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
なし。

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
なし。

<b>【教科書等】</b>
<p>教科書：土居健郎「続「甘え」の構造」（弘文堂）</p> <p>参考書：土居健郎「「甘え」の構造」（弘文堂）、恒吉遼子「人間形成の日米比較」（中公新書）、ルー・ベネディクト「菊と刀」（社会思想社）、中根千枝「タテ社会の人間関係」（講談社現代新書）</p>

## 電気通信大学 平成20年度シラバス

--

### 【授業内容とその進め方】

各回の担当者が、テキスト（教科書）の担当部分の内容をまとめたレジェメを配り、それを説明し質疑を受ける。他の人は、あらかじめその部分を読んでおく。  
セミナー終了後、最終レポートを全員が提出する。

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

概ね、以下の合計による。ただし出席が2/3以上ない場合は評価対象とならない。  
(1)出席および討論参加度(30点)  
(2)担当部分の発表(30点)  
(3)最終レポート(40点)

### 【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、メールなどで事前にアポイントを取ること。

### 【学生へのメッセージ】

各概念の定義をよくとらえること。  
セミナーでは遠慮無く自分の考えを述べること。

### 【その他】

なし。